

## 【ダビデ王の遺言】

名前 \_\_\_\_\_

### 【聖書箇所】 第1列王記2章（新共同訳聖書）

2:1 死期が近づいたとき、ダビデはこう言って王子ソロモンを戒めた。  
2:2 「わたしはこの世のすべての者がたどる道を行こうとしている。あなたは勇ましく雄々しくあれ。2:3 あなたの神、主の務めを守ってその道を歩み、モーセの律法に記されているとおり、主の掟と戒めと法と定めを守れ。そうすれば、あなたは何を行っても、どこに向かっても、良い成果を上げることができる。2:4 また主は、わたしについて教えてください、『あなたの子孫が自分の歩む道に留意し、まことをもって、心を尽くし、魂を尽くしてわたしの道を歩むなら、イスラエルの王座につく者が断たれることはない』という約束を守ってくださるであろう。

### 【チャレンジしよう】

1: 聖書の約束(イエス様)を信じ、従って良かったと思う事はどんな事がありますか。思い返して感謝しましょう。

2: あなたは、誰に、主の戒めを守るように伝えていきたいですか。

そのために、どのようにしていきたいですか

### ●メモ

---

---

---

---

---

---

1: 私達は、主の戒めを守るように教えよう。2:2~3

ダビデは、いよいよ死期が近づいた事を悟った。ダビデは祈り考え抜いた遺言の言葉をソロモンに贈った。その第1番目の事柄は「主の戒めを守るように。」という事であった。

ダビデ以前の信仰の偉人と言われる、モーセ(申命記 32:46~47)、ヨシュア(ヨシュア 23:6)、サムエル(第1サムエル 12:14~15)もみな同じ遺言を、愛する子供達、イスラエルの人々に残している。ダビデは、自分の人生を振り返り、いにしへの信仰者達が語ったその言葉は、本当にその通りだった事を実感していたのであろう。

思えば、ダビデの人生は波乱万丈の歩みであった。家族からもあまり重んじられていなかった羊飼いのダビデが、神によって次の王となるように選ばれた。ゴリヤテとの戦いに勝利してからは、一躍イスラエルの英雄となった。その後、サウル王に命を狙われながらも、やがて王位につくようになった。王となってからは隣国との戦闘において連戦連勝し、イスラエル王国の確固たる基盤を築いた。姦淫と殺人の罪を犯したが、預言者ナタンとして語られた神の叱責を受け止め、素直に悔い改めた。その後は、家族間の争いが絶えず、息子アブシャロムからクーデターをおこされ、命からがら逃げ出した事もあった。様々な事があったが、いつも主が共におられ、守り導き、そして祝福して下さり、今の自分があるのは、ただ主の恵みであった事をかみしめていたのであろう。(ダビデ晩年の歌・詩編 23 編)

だからこそ、今、愛する息子であり、次の王となるソロモンに、どうしても、これだけは伝えておかなければならない事として、「主を信頼し、主の戒めに従っていくように。」と伝えたのである。なぜなら、そうしていくなら何をしても必ず祝福されていくからである。

世代を超え、時代を超えて語り継がれ、今なお私達に語りかける言葉、それが主の言葉・戒めである。私達も、主の言葉をしっかりと胸に刻み、主の言葉に生きる者となろう。そして、私達もダビデのように主の恵みを体験し、「主の言葉を守るように」と語り伝える者となろう。